

防災(帰宅困難)対策について

本校では、非常変災時の子どもたちの命を守るために、以下のような防災備蓄品の備蓄および防災手帳を作成しています。

これらの対策については、平成27年度父母教師の会(PTA)運営委員会で議論され、平成28年3月1日PTA会長および運営委員長から、校長へ提案がなされました。これを受けて校内で防災を担当する生徒指導課を中心に検討を重ねたうえで、平成29年9月に導入しました。

基本的な考え方は、生徒たちや教職員が授業中に被災し、その多くが帰宅困難となった時一人一食分の食事および補食、必要な水を準備しておくというものです。

さらに PTA 運営委員会で検討を重ね、簡易トイレやサバイバルシート、毛布、自家発電機なども導入されています。

1人分の備蓄品

田舎ご飯(アルファ米)

米粉クッキー(SP パッケージ)

500ml ペットボトル水(2本)

携帯ミニトイレ

サバイバルシート(保温・防水用)

左記の1人分の備蓄品を、パッケージに収納し、緊急時には個人に配布します。また、卒業時には返却します。このパッケージには、収納物品名と賞味期限が記載されています。

食品の備蓄品は、食物アレルギーなどをもつ生徒も想定されることから、アレルギー27品目を除去したものとなっています。一部対応できない人のために白米のパッケージも準備しています。

これらの備蓄品は、非常時に備えて第1グラウンドの備蓄庫に保管されています。



さらに平成30年度には、非常災害時に学校で待機しなければならないことも想定されるため、自家発電機2台と、災害救助用毛布40枚を購入しました。



本校独自の防災手帳も作成し、平成30年度から毎年新しい情報に更新して配布しています。自分の情報メモ、家族との確認事項、伝言ダイヤル、情報収集のためのQRコードなどが記載されています。

